

進化続ける防災教育 表彰式・発表会で取り組み発表

400名を超える来場者 「知恵や工夫を地域に」

“新庄地震学”積み重ねた10年

10回目のぼうさい甲子園で見事グランプリに輝いたのは、和歌山県田辺市立新庄中学校。田辺湾に面する新庄町は、これまで繰り返してきた宝永地震、安政南海地震、昭和南海地震、100〜150年の周期で大きな地震が発生している。新庄中学校は昭和58年、標高21.3mの低い山の上に移転し、田辺市の指定避難施設になった。

平成23年3月11日の東日本大震災。田辺市にも大津波警報が発令され、300名を超える地域住民が新庄中学校に避難した。彼らの先輩は、体育館に畳を敷き、避難者にお茶や毛布を配布するなど、率先して動いた。

新庄中学校では、過去の歴史を踏まえ、これからの災害に備えるため、平成13年に“新庄地震学”がスタートした。3年生が各教科と防災を関連づけた学習を行うのが大きな特徴だ。“新庄地震学”は学校の文化となり、後輩に受け継がれている。今年度のテーマは一つながる。3年生は8つの班に分かれ、取り組みを進めた。

国語班は、小学校、高校、保護者、などから防災標語を集めた。優秀作品を選び表彰。過去の防災標語を使って防災カルタをつくり、小学生と交流も行った。



平成27年1月11日(日)、1.17防災未来賞『ぼうさい甲子園』の表彰式・発表会が兵庫県神戸市の知事公館で行われた。

『ぼうさい甲子園』阪神・淡路大震災の経験や教訓を生かし、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、全国の子どもたちの防災教育の先進的な活動を顕彰する。平成17年度より開始され、今年で10回目を迎えた。小学生・中学生・高校生・大学生の4部門から成り、地域性・獨創性・自主性・継続性を基準に選考される。

平成26年度は131校・団体から応募があり、全29校・団体が受賞。部門賞はグランプリ1、大賞2、優秀賞4、奨励賞4の学校・団体が受賞。特別賞は今年度より“新人賞”が新設された。会場には過去最多となる26校・団体の受賞者が集い、互いの取り組みをたたえ合った。



グランプリ
和歌山県・新庄中

社会班は、過去の津波被害の写真を場所を調査。避難経路を歩き現在の様子と比較する中で、必要な防災を考えた。地域の方から当時の話を聞き、災害の歴史とも向き合った。

音楽・保体班は、災害用伝言ダイヤル171や防災の替え歌をつくり、振り付けを考えた。

理科班、英語班、数学・技術班、美術班、家庭科班：生徒が提案したオリジナルの防災教育があふれる。

11月の発表会では、保護者、地域の方々にも学習成果を発表した。先輩が製作した“かまどベンチ”を活用した炊き出しも振る舞われた。

中学生はこれからも学び発信し動き続ける。大切なふるさとを私たちが守る、その決意と共に。

想いを力に変えて 防災活動拡げる決意

津波実演100回 感謝のプレゼン

【高校生部門 大賞】岩手県・宮古工業高等学校

「ありがたうございます。」から始まった、宮古工業高校の発表。東日本大震災で大きな被害を受けた学校の1つだ。ものづくりは工業高校の基本。津波の怖さがわかるからこそ、津波模型を活用した防災啓発を粘り強く進める。

津波模型班は設立10周年。これまで114回の津波実演会を実施し、今年度は念願の四国・関西遠征を実現した。実演の機会をありがとう。実演を見てくれてありがとう。真剣に考えてくれてありがとう。出会ってくれてありがとう。

あふれる感謝と共に、「慌てず、高台へ避難する大切さ」を呼びかける。

「これから災害が予想される地域で実演したい。津波実演会後の話し合いの場を大切にしたい。」知識・技術だけでなく、感謝の想いも後輩に引き継がれるように。

いくぞ亀っ！防災隊！

【小学生部門 大賞】愛知県・亀崎小学校

真つ赤なユニフォームで登場したのは、“亀っこ防災隊”。「自分のいのちは自分で守る、助かった命を活かす、そのために、やれることは何でもやってみる」が亀っこのスローガン。学校に設置された防災学習室には、映像や体験、展示コーナーがあり、いつでも誰でも防災を学べる。“自慢の教室”だ。学校、地域、家族、友人；周りの人々から、どんどん吸収していき、避難訓練では、防災の勉強をしたからこそ落ちついて避難できたこと振り返る。「私達にもできることはある。」

「これからも学び続ける。」

彼女達の笑顔は、希望に溢れていた。

自分で調べ、考え、行動する

【小学生部門 優秀賞】愛知県・翼小学校

防災教育に積極的に取り組むのは6年生。学習のテーマは“東海地震に備える”。過去の災害、今後起こりうる災害、避難所などについて調べ、災害前・災害時の備えや行動を考える。

地域の夏祭りではお店を出展し、災害時に避難所となる学校の備えを充実させるための募金活動も行った。売り上げや募金は、児童たちが話し合い、備蓄品の購入に活用する。東日本大震災の調べ学習をきっかけに、高浜市も津波の危険が高いと知った児童たち。「もし災害が起きたときは、自ら考え行動します」力強く語った。

- ◆平成17年度 兵庫県立淡路高校(兵庫県)
- ◆平成18年度 兵庫県立舞子高校環境防災科(兵庫県)
- ◆平成19年度 福島県立双葉高校(福島県)
- ◆平成20年度 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニット(兵庫県)
- ◆平成21年度 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県)
- ◆平成22年度 徳島市津田中学校(徳島県)
- ◆平成23年度 徳島市津田中学校(徳島県)
- ◆平成24年度 宮古市立鎌ヶ崎小学校(岩手県)
- ◆平成25年度 女川町立女川中学校(宮城県)
- ◆平成26年度 田辺市立新庄中学校(和歌山県)

ぼうさい甲子園積み重ねた10年
過去のグランプリ受賞団体



大好きなふるさと 私たちが守る

津田らしい事前復興まちづくり

【中学生部門 優秀賞】徳島県・津田中学校

津田中学校のあるエリアは、東南海・南海地震による津波の浸水被害が予想されている。「災害が起きたら、津田に住み続けてほしい」中学生は、災害後のまちづくりがスムーズに進むように、「事前復興まちづくり計画」の作成に取り組んでいる。

今年度は住民アンケートで津田の資源の活用方法を検討し、昨年度以上に具体的な計画・模型を完成させた。

ふるさとを好きな気持ちで、防災の一番の原動力。「防災・減災に強く、津田らしさのあふれるまちづくりを」これからも地域と共に歩み続ける。

子どもたちの未来のために

【大学生部門 優秀賞】静岡県・静岡大学

教職を目指す学生が集まり、防災教材の開発・実践に取り組み静岡大学藤井研究室。目標は「いざというとき、子どもたちの判断力、行動力を高めることだ。」

昨年度からは、災害時要援護者を対象とした防災活動にも力を入れ、特別支援学校・外国人、高齢者と対象も幅広い。

学校の家庭・地域で活用できる防災道徳の教材は、全国の30校以上で活用されており、防災教育のすそ野を拡げる一助となっている。

「なんと！子どもたちを守りたい」教員を目指す学生は、強い決意を語った。

奨励賞・特別賞の受賞団体

- ☆奨励賞☆
 - *小学生部門 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県)
 - *中学生部門 能登町立小木中学校(石川県)
 - *高校生部門 秋田県立仁賀保高等学校 BV会 & Be助っ人 千葉県立東金特別支援学校
 - *大学生部門 日本赤十字北海道看護大学 災害 beatS 研究会
- ☆はばタン賞☆
 - *萩市立育英小学校(山口県)
 - *大船渡市立吉浜中学校 吉浜げんき隊(岩手県)
 - *兵庫県立淡路高等学校 社会研究部
 - *ACTION -students' project for 3.11-(宮城県)
- ☆だいいょうぶ賞☆
 - *仙台市立桂小学校(宮城県)
 - *関西大学 学生団体 KUMC(大阪府)
- ☆津波ぼうさい賞
 - *奥尻町立青苗小学校(北海道)
 - *高知市立南海中学校
 - *高知県立須崎高等学校
- ☆教科アイデア賞☆
 - *黒潮町立佐賀小学校(高知県)
 - *大阪市立鶴見橋中学校
- ☆フロンティア賞☆
 - *上富田ふれあいルーム(和歌山県)
 - *西尾市立福地中学校(愛知県)
 - *兵庫県立神戸聴覚特別支援学校
- ☆継続こそ力賞☆
 - *アトリエ太陽の子(兵庫県)
 - *印南町立印南中学校3年生 総合的な学習 津波研究班 (和歌山県)
- ☆新人賞☆<今年度新設>
 - *愛知県立知立東高等学校

～表彰式・発表会に彩りを添えてくださったみなさん～



☆はばタン

☆兵庫県立舞子高校
環境防災科



☆司会
兵庫県立淡路高校 放送部

☆オープニングステージ
兵庫県立長田高校 音楽部
兵庫県立神戸聴覚特別支援学校